拡大共同企業体協定書（乙型）

（目的）

第１条　当共同企業体は、次の事業を共同連帯して営むことを目的とする。

一　徳島県発注に係る徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業として実施する次のイからホ

までに掲げる業務及び工事（当該業務及び工事内容の変更に伴う業務及び工事を含む。以下、単に「業務等」という。）の受託及び請負

イ　設計業務（基本設計、実施設計及び設計意図伝達に係る業務）

ロ　工事（第一工区）

ハ　工事（第二工区）

ニ　工事（第三工区）

ホ　工事監理業務

二　前号に附帯する事業

（名称）

第２条　当共同企業体は、○○（以下「当拡大企業体」という。）と称する。

（事務所の所在地）

第３条　当拡大企業体は、事務所を○○県○○市○○町○○番地に置く。

（成立の時期及び解散の時期）

第４条　当拡大企業体は、令和　年　月　日に成立し、業務等の受託及び請負契約の履行後○ヶ月以内を経過するまでの間は、解散することができない。

(注)○の部分には、たとえば３と記入する。

２　業務等の受託及び請負契約を締結することができなかったときは、当拡大企業体は、前項の規定にかかわらず、当該契約の交渉が不成立となった日に解散するものとする。

（参加企業の住所及び名称）

第５条　当拡大企業体の参加企業（当企業体を構成する設計企業、施工企業及び工事監理企業をいう。以下同じ。）は、次のとおりとする。

○○県○○市○○町○○番地　○○建設株式会社

○○県○○市○○町○○番地　○○建設株式会社

（代表者）

第６条　当拡大企業体は、○○建設株式会社を代表者とする。

（代表者の権限）

第７条　当拡大企業体の代表者は、業務等の実施に関し、当拡大企業体を代表して、発注者及び監督官庁等と折衝する権限並びに自己の名義をもって請負代金（前払金及び部分払金を含む。）の請求、受領及び当拡大企業体に属する財産を管理する権限を有するものとする。

２　参加企業は、成果物(契約書に規定する指定部分に係る成果物及び部分引渡しに係る成果物を含む。)等について、契約日以降著作権法(昭和45年法律第48号)第２章及び第３章に規定する著作権の権利が存続する間、当該権利に関し発注者と折衝等を行う権限を、当拡大企業体の代表者である企業に委任するものとする。なお、当拡大企業体の解散後、当拡大企業体の代表者である企業が破産又は解散した場合においては、当該権利に関し発注者と折衝等を行う権限を、代表者である企業以外の参加企業である一の企業に対しその他の参加企業である企業が委任するものとする。

（分担工事額）

第８条　各参加企業の業務等の分担は、次のとおりとする。ただし、分担工事の一部につき発注者と契約内容の変更増減等のあったときは、それに応じて分担の変更があるものとする。

一　設計業務　○○株式会社

二　工事（第一工区）　○○共同企業体

三　工事（第二工区）　○○共同企業体

四　工事（第三工区）　○○株式会社

五　工事監理業務　○○株式会社

２　前項に規定する分担業務等の価額（次条に規定する運営委員会で定める。）については、別に定めるところによるものとする。

（運営委員会）

第９条　当拡大企業体は、参加企業全員をもって運営委員会を設け、組織及び編成に関する事項、業務等に関する事項、工程管理及び資金管理の方法、下請企業の決定、業務等の完了後の契約不適合責任の分担その他の当企業体の運営に関する基本的かつ重要な事項について協議の上決定し、本業務等の完了に当たるものとする。

（参加企業の責任）

第10条　各参加企業は、運営委員会が決定した工程表によりそれぞれの分担業務等の進捗を図り、業務等の受託及び請負契約の履行に関し連帯して責任を負うものとする。

（取引金融機関）

第11条　当拡大企業体の取引金融機関は、○○銀行とし、当拡大企業体の代表者の名義により設けられた別口預金口座によって取引するものとする。

（参加企業の必要経費の分配）

第12条　参加企業はその分担業務等の実施のため、運営委員会の定めるところにより必要な経費の分配を受けるものとする。

（共通費用の分担）

第13条　本業務等の実施中発生した共通の経費等については、分担業務等の額の割合により毎月１回運営委員会において、各参加企業の分担額を決定するものとする。

（参加企業の相互間の責任分担）

第14条　参加企業がその分担工事に関し、発注者及び第三者に与えた損害は、当該参加企業がこれを負担するものとする。

２　参加企業が他の参加企業に損害を与えた場合においては、その責任につき関係参加企業が協議するものとする。

３　前二項に規定する責任について協議がととのわないときは、運営委員会の決定に従うものとする。

４　前三項の規定は、いかなる意味においても第10条に規定する当拡大企業体の責任を免れるものではない。

（権利義務の譲渡の制限）

第15条　本協定書に基づく権利義務は、他人に譲渡することはできない。

（工事途中における参加企業の脱退）

第16条　参加企業は、当拡大企業体が業務等を完了する日までは脱退することができない。

（業務等の途中における参加企業の破産又は解散等に対する処置）

第17条　参加企業のうちいずれかが業務等の途中において破産、解散その他の理由により業務等を実施できなくなった場合においては、当該参加企業以外の参加企業が共同連帯して当該参加企業の分担業務等を完了するものとする。

２　前項の場合においては、第14条第２項及び第３項の規定を準用する。

（解散後の契約不適合責任）

第18条　当拡大企業体が解散した後においても、当該業務等に関して、契約の内容に適合しないものがあったときは、各参加企業は共同連帯してその責に任ずるものとする。

（協定書に定めのない事項）

第19条　本協定書に定めのない事項については、運営委員会において定めるものとする。

○○建設株式会社外○社は、上記のとおり、徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業拡大共同企業体協定を締結したので、その証拠としてこの協定書○通を作成し各通に参加企業が記名捺印し、各自所持するものとする。

年　月　日

○○（拡大企業体の名称）

○○建設株式会社　代表取締役 ○ ○ ○ ○ 印

○○建設株式会社　代表取締役 ○ ○ ○ ○ 印

拡大共同企業体協定書第８条に基づく協定書

徳島県発注に係る下記業務等については、徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業拡大共同企業体協定書第８条の規定により、当拡大企業体の参加企業が分担する工事の工事額を次のとおり定める。

記

分担工事額（消費税分及び地方消費税分を含む。）

○○建築工事　○○建設株式会社　○○円

○○土木工事　○○建設株式会社　○○円

○○建設株式会社外○社は、上記のとおり分担工事額を定めたのでその証拠としてこの協定書○通を作成し、各通に参加企業が記名捺印して各自所持するものとする。

年　月　日

○○（拡大企業体の名称）

代表者 ○○建設株式会社 代表取締役 ○○○○ 印

○○建設株式会社 代表取締役 ○○○○ 印